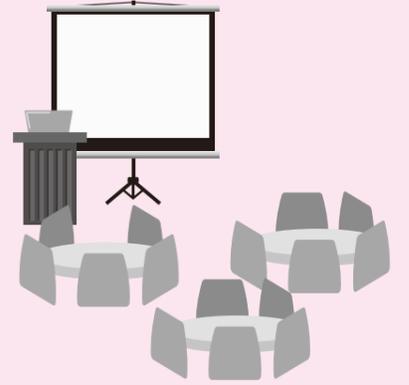


総務常任委員会・文教厚生常任

合同視察研

委員会・建設経済常任委員会

修しポート



総

委員長 市村 香 副委員長 大山和則
委員 相田一良・増田 豊・小林正紀・風野和視

文

委員長 鈴木裕一 副委員長 谷田部由則
委員 林 悦子・高田重雄・小高友徳・菊池伸浩

建

委員長 飯島重男 副委員長 萩原剛志
委員 増田 昇・潮田新正・仁平 実

視察日 平成30年5月22日(火)～24日(木) 参加委員9名
視察先 フィリピン共和国マニラ市、バコール市

友好交流都市協定調印

桜川市とフィリピン共和国バコール市の間で、友好交流都市協定の調印式が執り行われました。バコール市役所に着くと、マーチングバンド・カラーガード隊の演奏と踊りにより、盛大な歓迎式が催され、調印式には、桜川市から大塚市長ほか桜川市議会議員9名が出席、バコール市からはラニ・メルカド・リベラ市長ほかバコール市議会議員12名と、在フィリピン日本大使館から、桑原敦公使兼総領事ほか2名が出席し、大塚市長とラニ・メルカド市長が協定書に調印をしました。今回の友好交流都市協定調印をもとに、いろいろな分野で交流を図りたいと考え、現在の小学校同士のスカイプによる英語事業の交流のほか、どのような交流ができるか、意見交換をしました。今後は、留学生や労働者・文化・スポーツなどさまざまな分野において交流ができるよう協議・検討を重ねていくことを確認しました。

ICT技術を活用した英会話交流事業

昨年度から、岩瀬小学校とバコール市のバヤナン小学校の間で、ICT技術を活用した英会話交流事業を実施しています。本年度も引き続き、バコール市内の学校との交流が計画されて

いることから、バコール市庁舎に近いマンボック小学校を視察しました。

今回、友好交流都市協定が締結されたバコール市には、27の公立小学校があり、視察したマンボック小学校は1974年に設立された小学校で、バコール市庁舎が位置する地域にあり、1学年当たり254人から450人、合計1948名もの児童が通う小学校です。

本年度からは、ICT技術を活用した英会話交流事業を、各小中学校に広く展開することにより、将来を担う子どもたちが外国語学習への関心と意欲を高められるものと思います。

人材派遣事業について

マニラ市内のYWA（人材派遣会社）では、労働人材の確保にかかる研修を行いました。YWAは、1994年に設立されたマニラ市内の人材派遣会社で、2014年からは日本の「技能実習制度」による派遣事業を着手し、日本での労働を希望する技能実習生に必要な日本語教育や技能実習などを総合的、かつ効率的に行い、現在は多くの技能実習生を日本に派遣しているとのことでした。

日本語学校の古橋校長の説明によると、フィリピンの人口動態はピラミット型で若年労働者

があふれ、特に日本に仕事を求める若者が増えているとのことで、両国の利害関係をマッチさせることにより、よりよい発展が期待できるものと思います。

今後、バコール市の労働者を受け入れるための研修機関としての活用が期待されますので、市内関係機関と連携し、積極的な推進を要望しました。

農産物や特産品、地場産業製品の輸出入について

桜川市の特産物である米、小玉スイカ、柚子

の加工品や地場産業である石材加工品の輸入や需要等について、意見交換を行いました。

農作物等については、現在、日本とフィリピン共和国との間で検疫に関する協定がないことから輸出入は困難な状況ですが、今後、検討を進めることで意見が一致しました。

また、墓石等の需要は少ないようですが、モニュメントなどの石材加工品については設置できる可能性が高いので、今後、協議検討の推進を要望しました。



バコール市役所にて